

調査・研究事業の概要

平成21年度

1. 被認定者等に関する医学的所見に係る解析調査

被認定者や医療機関において当該疾病の診断を受けた者について、医学的所見の解析を行い、適切な診断手法・技術の確立を目指す。

(1) 石綿小体等計測技術の普及啓発に関する調査編

気管支肺胞洗浄（BAL）の検体（BALF）による石綿小体計測について、症例選択基準、計量方法を含む標準的な実施手技及び判定基準を検討した。（東洋大学・神山宣彦先生）

(2) 中皮腫の病理診断に関する調査編

中皮腫の組織型分類を確認の上、当該症例の経過や治療への反応性を解析し、様々なタイプの中皮腫における生物学的性状の差異を分子病理学的な観点から検討した。（広島大学・井内康輝先生）

(3) 石綿関連悪性腫瘍診断の精度向上に関する調査編

中皮腫における稀な例（腹膜中皮腫、心膜中皮腫）や胸膜中皮腫の非典型例（限局例、胸水型）を解析した。（埼玉医科大学・酒井文和先生）

2. 指定疾病見直しのための石綿関連疾患に関する事例等調査

石綿肺について、実際の症例を取り扱っている医療機関から、当該症例に係る医学的資料を収集し、その臨床像を把握するとともに、種々の解析を行った。（独）労働者健康福祉機構）

3. 石綿関連疾患に係る文献調査

国内外における石綿健康被害に係る最新の知見を収集・解析した。（日本エヌ・ユー・エス(株)）

4. 石綿健康被害救済制度に関する海外動向等調査

先進国について、各国における同様な制度の運用状況、認定基準等の医学的判定の実際について調査するとともに、石綿健康被害の将来予測・実態と石綿健康被害救済制度との関係性について調査を行った。（東京海上日動リスクコンサルティング(株)）

5. 中皮腫患者数の将来推計に関する基礎調査

諸外国で収集した中皮腫患者数と船舶建造量・建築物建築量との相関関係を解析し、その結果を用いて、我が国の中皮腫患者数を推計するモデルを作成した。(リンク情報システム(株))

6. 石綿健康被害救済制度に係る調査結果の医療関係者に対する還元

石綿関連疾患を診療することの多い全国の医療機関に対し、石綿健康被害救済制度に係る調査結果を還元する講習会を開催する。本年度は仙台市(2/27)と福岡市(3/7)で実施。((株)オーエムシー)

7. 被認定者に関するばく露状況の解析調査

被認定者について、職業歴、居住歴、生活歴等に係る詳細なアンケート調査等を実施して石綿ばく露の状況を把握する。また、労働現場と関連するばく露歴が明らかでない者については、石綿が一般的に使用されていた期間中の居住地を調査し、それらの全国的な分布とともに、特定の地域における分布の傾向について、把握・解析を行う。((独)環境再生保全機構)

8. 石綿の健康リスク調査

おもに昭和30～40年代に一般環境経路による石綿にばく露した可能性の高い代表的な地域において、住民を対象として胸部X線検査、胸部CT検査等の医学的所見の有無についてフォローアップを行い、石綿のばく露歴や、石綿関連疾患等(中皮腫・肺がんに加えて、胸膜プラーク、石綿肺などを含む)の健康リスクについて解析を行い、継続的な健康管理と石綿ばく露による健康影響の実態把握に努める。

また、石綿関連疾患に関わる所見が見られた者については、特に、継続した経過観察が必要であることから、重点的に受診勧奨を実施するとともに、該当者に対してのフォローアップの方法について検討する。その成果を踏まえて、地域における保健指導の在り方についてマニュアルを作成し、保健所担当者等を対象とした講習会を実施する。

(大阪府、尼崎市、鳥栖市、横浜市、羽島市、奈良県、北九州市)

1. 石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査

被認定者や医療機関において当該疾病の診断を受けた者について、医学的所見の解析を行い、適切な診断手法・技術の確立を目指す。

(1) 中皮腫の鑑別診断の在り方調査（継続）

救済制度において中皮腫の認定を受けた者や医療機関において当該疾病の診断を受けた者について、資料を収集の上、病理組織学的な観点から解析を行い、適切な診断手法・技術の確立を目指す。

(2) 胸水ヒアルロン酸、胸水腫瘍マーカー測定値に基づく中皮腫診断補助検査の確立に関する調査（新規）

胸水中ヒアルロン酸や各種腫瘍マーカーについて、胸膜中皮腫とその他の鑑別すべき疾患との比較検討を行い、中皮腫診断における有効性について検証を行う。

(3) 腫瘍組織における遺伝子の構造及び発現の相違に関する調査（新規）

遺伝子検索を行い、遺伝子発現制御機構やゲノム構造を網羅的に解析する。将来的に中皮腫、石綿による肺がんの早期診断手法・技術の確立を目指す。

(4) 病理組織標本における石綿小体計測及び胸腔鏡所見による医学的所見の評価に関する調査（新規）

病理組織切片中で確認できる石綿小体数や放射線画像上以外により確認できる胸膜プラークについて、ヘルシンキ・クライテリアとの相関関係について検証を行う。

(5) 石綿小体等計測技術の普及啓発に関する調査（継続）

気管支肺胞洗浄（BAL）の検体（BALF）による石綿小体計測について、症例選択基準、計量方法を含む標準的な実施手技及び判定基準を検討し、その成果を国内の医療機関等向けに普及啓発を行う。

(6) びまん性胸膜肥厚に関する調査（新規）

びまん性胸膜肥厚に係る医学的判定上の課題を検証し、適切かつ効率的な医学的判定の在り方について提言を行う。

2. 石綿関連疾患に係る文献調査（継続）

国内外における石綿健康被害に係る最新の知見を収集・解析する。

3. 石綿健康被害救済制度に関する海外動向等調査（継続）

近隣諸国の政府関係者等を対象として、石綿健康被害救済の在り方に係る意見交換を行う。

4. 石綿健康被害救済制度に係る調査結果の医療関係者に対する還元（継続）

石綿関連疾患を診療することの多い全国の医療機関に対し、石綿健康被害救済制度に係る調査結果を還元する講習会を開催する。

5. 中皮腫患者数の将来推計に関する基礎調査（継続）

被認定者について、職業歴、居住歴、生活歴等に係る詳細なアンケート調査等を実施して石綿ばく露の状況を把握する。また、労働現場と関連するばく露歴が明らかでない者については、石綿が一般的に使用されていた期間中の居住地を調査し、それらの全国的な分布とともに、特定の地域における分布の傾向について、把握・解析を行う。

6. 被認定者に関するばく露状況の解析調査（継続）

被認定者について、職業歴、居住歴、生活歴等に係る詳細なアンケート調査等を実施して石綿ばく露の状況を把握する。また、労働現場と関連するばく露歴が明らかでない者については、石綿が一般的に使用されていた期間中の居住地を調査し、それらの全国的な分布とともに、特定の地域における分布の傾向について、把握・解析を行う。

7. 一般環境経路による石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査（継続）

一般環境経路による石綿ばく露の可能性のあった代表的な調査対象地域それぞれにおいて、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態を引き続き把握する。さらに、これまでの調査で得られた知見を活用して、平成22年度より対象者数を大幅に増加させ、新たに有所見群と無所見群の2群を設定し、各群に属する住民を対象に、5年間、毎年継続した受診協力をする旨の同意書を得たうえで、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等の毎年の検査（年1回）や健康状況の確認を確実にを行い保健指導などのフォローアップを充実することにより、有所見者と無所見者の2群間の石綿関連所見の変化や石綿関連疾患の発生状況の比較を行う。